

#### ■授業の目的

中学・高校で地理の授業を担当することを想定し、生徒に興味・関心を持ってもらえる自然地理の入門として、これだけは知っておいて欲しい内容を取捨しつつ、地球上の自然環境を万遍なく学ばせる。

#### ■授業の到達目標

教科書の内容を読了し、以後の各分野を掘り下げて学ぶ動機づけとなる。または、人文・自然科学へのさらなる興味を持って学ぶ素養が身に付いたと自覚できることを目標とする。

#### ■授業計画

- 1 環境変動と地形発達  
気候変動にもなる自然環境の変化。上下にも動く河川。ありふれた地形のなりたちを探る（段丘を例に）。
- 2 東京都の地形区分  
関東平野の形成。氷河期・間氷期の海岸線の変動。東京都の地形形成。武蔵野台地の成り立ち。地下水や上水の役割と都市化の形成。
- 3 自然に生きるⅠ  
自然からの恵み。世界自然遺産を巡る。自然の猛威。自然災害の発生連鎖と連鎖を断つ手段。私たちがすべきこと（ハザードマップの入手とその活用）。
- 4 自然に生きるⅡ  
地球と人類のゆくえや如何に。環境問題を含めた現代社会をとりまくさまざまな問題を考える。
- 5 世界の気候区分  
世界の気候区分について。経験的気候区分（ケッペンの気候区分）の成り立ち。成因的気候区分（アリソフ・フロエン）の紹介。
- 6 世界の気候区と人々の生活Ⅰ  
熱帯・乾燥帯・温帯の気候と生活。気候区の景観・特徴と農業の特徴。雨温図・ハイサーグラフの作成。
- 7 世界の気候区と人々の生活Ⅱ  
亜寒帯・寒帯・高山気候の特徴と、人々の暮らし。小気候（都市気候）、地球規模の異常気象とそのメカニズム。
- 8 世界の環境問題Ⅰ  
世界のおもな環境問題を大観する。オゾン層の破壊、地球温暖化について、その原因・影響と対策。熱帯林の破壊について、現状と対策・課題。
- 9 世界の環境問題Ⅱ  
進行する砂漠化と自然的要因および人為的要因。大気汚染と酸性雨について。持続可能な開発と環境問題との調和について考える。
- 10 日本の気候  
日本の気候に影響を与える気団。日本の気候と気候区について。地方特有にみられる気候災害（雪害・風水害・洪水・土石流等）とその対策。
- 11 世界の土壌  
世界の土壌・植生区分。成帯土壌・間帯土壌と農業の関連について。作物の栽培限界。
- 12 陸水  
河川水・湖沼水・地下水、氷河のはたらきとその活用について。世界の各地域にける水系図や河川の河況係数を比較する。灌漑・発電等の地域的な差異を調べる。
- 13 江戸時代の水利事業  
江戸時代における上水道について、生活・灌漑用水路の果たした役割を調べる。多摩地域における新田開発と江戸の町との関係性を調べる。
- 14 身近な地域のフィールドを巡る  
丘陵や台地における細かい地形起伏の観察。神田上水をたどる。東京都水道歴史館における江戸上水道学習とレポート作成。
- 15 自然地理の学びで得たこと  
自らテーマを設定して、生活の中で「自然地理」で学んだ内容が役立っていると考えられる例を挙げてレポートを作成する。

#### ■授業の方法

書画カメラやPCを使った学習教材の提示と講義。配布資料に基づく演習授業。事前課題に対する発表と質疑応答。AL（アクティブ・ラーニング）を用いた授業展開。フィールドワークに向けた事前・事後指導を行う。

#### ■予習・復習

毎時間次週の授業に向けての予告と課題を提示する。教科書の本文を必ず読んでおき、わかりづらい点を理解できるようにノートを作成したり、インターネットで調べさせる。

#### ■成績評価の方法

毎時間の演習プリントの取り組み状況をチェックしたり、小テストを実施し、その到達度（20%）をみる。フィールドワークのレポートや課題提出（10%）の内容をみる。さらに前・後期試験を評価（70%）の重点に置く。

#### ■教科書・参考書

- 教科書 「初めての自然地理学」 吉田 秀嗣著（古今書院）  
参考書 「自然のしくみがわかる地理学入門」 水野 一晴著（ベレ出版）  
「やさしい気候学 第3版」 仁科 淳司著（古今書院）